

平成29年度 学校関係者評価(結果)

学校番号	24	学校法人静岡理工科大学 静岡北高等学校	記者	廣住雅人
------	----	---------------------	----	------

学校教育目標	1. 常に誠実で、清らかな心をもって物事に真剣に取り組むことができる人材を育成する。2. 現状に甘んじることなく、日々新しいものを創り出そうとする気持ちを持ち、何事にも積極的に挑戦していく人材を育成する。3. 技術の進歩が著しい今日、大学院・大学・専門学校という高等教育機関の場において、高度な科学技術を習得できるように、基本的な学習を身に付ける。	【総合評価】 説明を得た、重点目標4項目のうち3項目は施策・成果ともに実現できたと思われる。生徒募集に関しては、結果的に目標生徒獲得数には届かなかったものの、施策は、全教職員が積極的に取り組んだと考えられる。新学習指導要領実施、大学新テスト実施に向けた教員研修、ディープ・アクティブラーニングやICT教育については、積極的に各教員が研究・研修をしている。		
教育方針	将来、科学技術に夢と希望を持ち、創造性豊かな人材育成の基礎をつくる。			
今年度の重点目標		評価	成果と課題	次年度の取組
時代が求める教育を展開する	①-1. 国際的な研究発表の機会を数多く計画することや、海外連携校の拡大、留学制度の再構築し、海外交流プログラムを開発する。 ②-1. 「電子黒板」「ノートパソコン」「タブレット端末」等々を用いた教育を展開する。 -2. ICTを正しく使うための「モラル」や「リテラシー」教育を展開する。 ③-1. 「学力の3要素(①知識・技能の確実な習得 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)」を育成するためのカリキュラム・マネジメントを推進する。 ④-1. 主体的・対話的教育手法を実践し、探究学習・課題研究においては、事前学習・事後学習・成果発表などの活動を展開する。	4	学校の取り組みとして、海外校交流に積極的に参加する一方、海外からの受け入れに関しても、タイの提携校を受入れによる高・大一貫コースとの交流を図られた点は、評価される。ICT教育の側面については、教員用・生徒貸出用タブレットや移動用のプロジェクターの数を増やすことで、積極的に取り組んでいる状況がうかがわれる。また、情報モラルに関しても、HPR活動・集会を通して、生徒に対して適切な情報活用に関する指導が良くなされている。英語教育については、英語の4技能の向上を図り、来るべき大学入試改革に対する備えを行っている。加えて、アクティブラーニングから、ディープ・アクティブラーニングへの研修をすることで、新たな教育手法へ	国際交流に関しては、今までの実績を生かして、さらに発展させることを期待したい。また、ICT教育に関しては、時流に遅れることなく、授業における効果的な活用に関する研究に努めていくことを期待したい。さらに大学入試改革に対応する授業展開を行っていくことと同時に、そこで求められる学力の3要素を身に付ける教育が展開されることを望む。
法人内学校との連携強化を図る	①-1. 大学及び専門学校の特色・魅力・特典を発信し、各学年毎、大学・専門学校へ誘導する。 -2. 大学と連携し高・大一貫教育の再構築を推進しつつ、教育内容や実践成果を学校内外に発信する。 -3. 生徒の進路希望と適性を見極め、高・大一貫コース及びコース以外からの志願数を増やす。 -4. 専門学校と連携し高・専一教育の再構築を推進しつつ、教育内容や実践成果を学校内外に発信する。 ②-1. 基礎学力育成を目的とした学習プログラムを構築する。	4	静岡北高校の大きな特色である高・大・高・専一教育を、さらに発展させるべく努力されている点は、大きく評価に値する。また、法人内の大学・専門学校という高等教育機関に進学しても中核として活躍できる学生となるべき資質を、高校在学中にしっかりと身に付ける教育を展開している点も評価したい。	高等教育機関との一貫教育は、静岡北高校独自の教育であるので、今後もモデルケース校として評価されるよう、大学・専門学校との連携を密にし、より一層発展していくことを期待したい。
評価される進路実績作りを行う	①-1. 質の高い、授業・講座を実施し、教科を中心に「学び方」を学び、「生きた高質な知識・思考力を養う授業」を展開する。 -2. 主要5教科において、「高等学校基礎学力テスト(仮称)」、「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の研究を行う。 -3. 2020入試に対応できる教科指導力を教員研修によって養う。 ②-1. 実用的な「読む・書く・聞く・話す」の4技能などやネイティブ・スピーカーによる「英語で英語を学ぶ」という本格的な英語教育を導入し、「英語力」を育成する。	4	来るべき大学入試改革に向けての研究と教員間における情報共有は十分になされている。	大学の新入試制度では、従来にはない観点での評価が求められることになるので、学力だけでなく、高校在籍中の活動履歴として残せるようなプログラムを組んだり、「聞く・話す」といった英語能力を向上させたり、自分をしっかりとPRできるプレゼン能力をつけるような教育をしてほしい。
目標生徒数を獲得する	①-1. 学校案内パンフレット等々の広報媒体を検証・改善すると共に、デジタル化し、紙媒体では伝えきれない情報発信の開発を行う。 ②-1. 教職員全員が学校の正確な情報を伝達できるよう(情報の共有化、プレゼンテーション能力の習得)にする。	3	目標生徒数は獲得できなかったが、体験入学や学校説明会における集客数は伸ばしている。また、生徒・保護者に学校の魅力を十分に伝えられるプレゼンテーションは、行われてきたと判断できる。	定員獲得できなかった要因としては、外的な要因と内的な要因があると思うが、他校に負けない特色ある教育と進路実績を持っているので、募集に関する分析を十分にを行い、次年度は目標生徒数を確保するようことを期待する。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	評価	成果と課題	次年度の取組
学校経営	設定された教育目標にそい学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動を展開する。	教育目標、学校経営計画書、教育活動	平成29年度から5年間の第3次中期計画に基づいた学校経営を行う。	各分掌官の連携をとりながら、高校教育改革・大学教育改革を見据えるために、外部で行われる研修に積極的な参加した。	4	学校からの説明にあるように、第3次中期計画初年度に従い、教育目標、学校経営計画書が作成され、それに基づいた教育活動は概ね成果が得られたものと判断できる。	学校を取り巻く社会的な環境変化を十分に読み取り、第3次中期計画も学校の実情や時代に合った形で軌道修正をしながら、健全な学校経営がなされることを期待したい。
教育課程・学習指導	適切な教育課程が編成され、学習目標・計画が明示され、日常の学習活動を効果的に展開する。	教育課程、学習目標・計画・指導、課題実施、学習状況把握	新学習指導要領に基づいた新教育課程の編成をにらみながら、中高の接続や学科再編等の検討を考える。また、個々の教員のスキルアップをしていくことで、どの教員も個々の生徒の学習レベルに適した授業展開を行う教育環境を整える。	新学習指導要領に基づいた新教育課程の編成をにらみながら、中高の接続や学科再編等の検討を考えるために5か年計画を立てた。また、個々の教員のスキルアップをしていくことで、どの教員も個々の生徒の学習レベルに適した授業展開を行う教育環境を整えることを推進した。	3	課題として残されたものはあるが、個々の教員はスキルアップに努め生徒の学習レベルの向上を図っているものと評価する。	新学習指導要領への移行を考えながら、今後の静岡北高校のあるべき姿がどこにあるかを教職員で十分に議論し、そこに合った教育課程を編成することを検討されたい。
生徒指導	健全な高校生活を送れるような生徒への啓発活動を行い、個々の生徒へのサポート体制を家庭との協力のもと確立し、生徒理解に努める。また自立した生徒の育成のための支援をする。	生徒への啓発活動、家庭との連携、事前事後指導体制、人間教育、生徒理解、基本的な生活習慣の確立、自立した生徒の諸活動	問題行動を起こさないといった気持ちを持つる生徒を育成する。また、一層複雑になる社会環境の中で、心の病を抱える生徒たちに対しては、個々の生徒に応じた適切な指導体制を整える。加えて、社会に出る心構えとして、改めて基本的な生活習慣を確立する。	問題行動を起こさないといった気持ちを持つる生徒を育成している。多くの生徒が言動面で落ち着いた学校生活を送っている。また、一層複雑になる社会環境の中で、心の病を抱える生徒たちに対しては、個々の生徒に応じた適切な指導が行えた。	4	学内は、生徒の問題行動の事案件数も少なく、落ち着いた学校生活の環境が維持されているものと判断される。心の病に陥る生徒の増加は、社会的にも大きな問題となっているが、社会で評価されているように、きめ細やかな指導をしているものと判断する。	社会的には、発達障害を抱える生徒の問題が顕在化しており、高校教育においても、その問題は無視して通れないものとなっているので、外部機関も利用しながら適切な対応が取れるよう検討することが必要。
進路指導	学校の方針に基づいた進路指導を展開し、個々の生徒の進路希望に即した緻密な指導を実行する。また、本校独自のキャリア教育を実施する。	学校の方針に基づく進路指導、生徒への情報提供、個々の生徒への対応、就職指導、進学指導、キャリアパートナーシップ事業	高校卒業後のさまざまな進路選択があると同時に、その後も「単線型キャリア」、「複線型キャリア」等、生徒の将来は多種・多様である。それに対する基本的指導を教員の共通理解のもと行う。	高校卒業後のさまざまな進路選択があると同時に、その後も「単線型キャリア」、「複線型キャリア」等、生徒の将来は多種・多様である。それに対する基本的指導を教員の共通理解のもと行うことができた。	4	初の国公立大学医学部医学科への合格、更には国公立大学合格者数が60人を超えた点は、十分に評価される。また、法人内の大学・専門学校への進学者目標数も達成することができ、法人内の高等教育機関に寄与した点も、スケールメリットを十分に生かしていると思われる。	大学新入試制度で、進路指導の在り方が大きく変わってくると予測されるが、それに向けて、適切な対応が取れることを期待する。また、従来から静岡北高校が意識しているキャリア教育に関しては、継続して濃い内容のプログラムを展開してほしい。
安全管理	日常から防災に対する意識を高め、予期せぬ災害時に適切な対応ができる体制作りをすることが必要。また、学校としても校内の危険箇所の定期的な点検、スクールバスの安全運行といった意識を常に持ち合わせる必要がある。	防災訓練(校内・校外)、災害時の対応、安全な教育環境、安全なスクールバスの運行	防災意識の継続的啓発活動の実施と安全管理に関しては、現状以上に意識を高めた。加えて、教員の危機管理に対する意識をさらに強める。	防災意識の継続的啓発活動の実施と安全管理に関しては、現状以上に意識を高めた。加えて、教員の危機管理に対する意識をさらに強めた。	3	災害発生時の対応計画は適切に作成されていると思われる。また、年間の防災計画に基づき、訓練もしっかりと実施されている。加えて、自転車の通学指導においても、教員が登下校時に、よく指導をしている。	昨今、予期せぬ規模での災害発生が起こっている状況なので、現状の防災計画なども、再検討していく必要がある。
保健管理	生徒の健康管理のための検診計画を作成・実行し、疾病者に対する治療勧告を確実に行う。また部活動の活性化を図り、ボランティア活動に積極的に取り組む。	検診計画、健康管理指導、運動部・文化部の活性化、ボランティア活動への参加	治療勧告が出た生徒は、確実に直させる指導を徹底する。また、運動部・文化部共に今年度以上の成果が残せるような活発な活動を展開する。	今年度は、養護教諭を中心とし、保健体育課の顕著な活動が見られた。治療勧告が出た生徒は、確実に直させる指導を徹底できた。法的措置に従った保健活動・安全活動が実施された。	4	養護教諭を中心に、保健体育課において、生徒の健康管理についての指導はなされている。また、部活動においては、運動部・文化部共に、顕著な活動実績が残された。	日々の生徒の健康管理を、生徒主体で行える体制づくりにしていくことを期待したい。また、今後は外部機関との連携も視野に入れた健康管理体制を構築していくことを検討してほしい。
特色ある教育	法人のスケールメリットをいかし、本校独自の高・大、高・専一貫教育を推進し学園全体の活性化を図る。また、課題研究を推進し他校との差別化を図りつつ、進路実績につなげる。	高・大一貫教育、高・専一貫教育、外部機関との連携教育、SSH事業への取り組み、課題研究	高・大一貫教育に関しては、ワーキンググループの啓蒙を受けプランを推進するため法人・大学・高校の経営サイドの協力を得ながらプログラムの充実を図る。高・専一貫教育に関しては、高校・専門学校の教員の意識にずれが生じないよう、より連携を密にしながら、思い切った改革を検討する。また課題研究については、連携機関を海外に求め幅を広げ、さらにはより生徒主体の取り組みに移行していく体制を構築する。	高・大一貫教育に関しては、ワーキンググループの啓蒙を受けプランを推進するため法人・大学・高校の経営サイドの協力を得ながらプログラムの充実を図れた。高・専一貫教育に関しては、高校・専門学校の教員の意識にずれが生じないよう、より連携を密にすることができた。	4	静岡北高校独自の教育となっている高・大一貫コース、高・専一貫コースにおいては、連携する大学・専門学校との間で、定期的によく情報交換の場が持たれ、教育プログラムの向上が図られていると判断できる。	大学や多様な専門学校を有するスケールメリットを十分に生かし、さらにこの教育スタイルが発展していくことを期待したい。

領域	ねらい	評価項目	達成目標	昨年度の実績	評価	成果と課題	次年度の取組
組織運営	組織的な校務分掌体制を整え、規律をもって教職員が服務を全うする。また計画的な予算編成を中長期的な観点から考え、日常の経理業務を正しく管理する。加えて個人情報に関する管理、公文書管理を適切に行なう。さらに保護者・地域と連携した活動を展開する。	効果的な学校運営体制の確立、組織的な校務分掌体制、規律正しい勤務体制、連携した危機管理体制、計画的な予算執行、中長期計画の策定及び遂行、経理業務の管理、個人情報保護、公文書の管理、情報収集体制の確立等、効果的な活用がされているかチェック機能の確認をする。	現在、総務部・教務部・指導部の3部に各分掌が配置されているが、学校業務が多くなり各部・各分掌の業務が煩雑になっているので、組織と業務内容の精査を行う。	組織をスリム化することと円滑な組織運営ができなかった。報告・連絡・相談をしていくことで、情報の共有化を行い風通しの良い組織づくりはできた。経理業務に関しては、中長期計画も時流で変化しているの、それに伴って予算計画も変更していくはできなかった。コンプライアンスが求められる時代の中の学校として、情報の管理意識、教職員の規範意識について、啓発活動することができた。	3	大きな組織であるが、各部・各課(科)で、円滑な職務遂行がされているものと判断する。	働き方改革が叫ばれる今日、教職員の世界も例外ではないので、個々の教員に過重負担がかかり、健康を害することがなく、健全な学校運営ができるように、教職員の効率の良い業務遂行ができる体制づくりを検討していくことを期待する。
研修	学校の教育内容が問われる時代、教職員の資質向上が常に求められるので、計画的かつ時代が求める教師となっていくための研修を的確に実施し、各教職員が個々のスキルを上げていく体制作りをする。また、研修内容を共有化していくためのシステム作りをしていく。	計画的な研修体制の確立、郊外研修への参加、研修報告会の実施	研修の有益性を生かし、教育を行う教職員の資質向上と、現状掌握とその共有化のための校内研修・中高合同研修を的確に実施する。	時代をとらえた研修内容を精選して実行できた。さらに研修報告会を実施すると共に、次に何をしたらよいかを考える話し合いを実施することができた。	4	高大接続改革やICT教育、更にはディープ・アクティブラーニング研修などに積極的に取り組み、時代に即応した教育体制づくりに努力している状況を伺うことができた。	教育の世界の様々な分野の中で、時代に応じて多くの課題が提言されてくるので、常に研修を怠ることなく進めていく体制づくりを、今後も継続してほしい。
保護者、地域住民との連携	学校を支えてくれる保護者の会や外部団体との連携を強化し、学校運営を側面から支援してくれる組織の意見を受け入れながら、更なる本校の発展を目指す。	保護者の会との情報交換、学校運営に対する外部団体の参画、外部要望の学校運営に対する反映、保護者に対する協力依頼	学校を支えてくれる3団体(保護者の会、同窓会、教育振興会)との連携をさらに強化していく。特に地域や外部団体との連携を強化していく。	保護者の会との定例会がルーチンで終わることなく、積極的な意見交換の場として発展させることができた。また、新たな支援団体の協力を得てキャリアパートナーシップを展開できた。地域住民が本校に足を向けてくるようなイベントをSSH事業を中心に展開することができた。そのための広報媒体としてホームページを積極的に活用した情	4	保護者の会・同窓会・教育振興会と、静岡北高校を支える三団体との関係は、いい協力体制が構築されているものと判断できる。	学校を支援する三団体との関係を密にし、より強固な支援体制を構築してもらうことは言うまでもないが、今後は地域の中に強い存在感を持った静岡北高校となっていくよう、地域住民との間で連携を作り上げ、生徒の学校生活に還元されるようなことも検討してほしい。
施設設備	施設設備の美化と定期的な点検を確実にし、安全管理に努め、生徒たちにしっかりとした学習環境を整備する。	効果的な施設利用と環境美化、施設・設備の点検、学習環境の整備、図書館の活用	大規模事業計画である中学棟・親和館(特別棟)に替わる複合施設と体育館の建設に向けた計画を検討する。また、高校棟内の施設・設備の整備を推進する。	小教室の使い方指導と清掃を確実に行った。修理依頼に関しては、文書で行うことを徹底できた。また、生徒会の美化委員会を通して美化意識の啓発活動を実施した。図書館に関しては、放課後の利用も考え照明を明るくする施設改善を実施することができなかった。	3	老朽化している中学棟・親和館・体育館の建設に向けての検討に関しては、ICT教育推進のためのタブレット整備などについては良く着手し、活用方法の研究をよくしている。	老朽化している施設の建て替えに向けての検討を早い段階で進めてほしい。
				総合評価	4		